

総務文教常任委員会

令和2年9月11日（金）

午前10時～

全員協議会室

1 開議

2 事務局日程説明

3 議案審査

市長公室

- (1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算（第5号）
<説明～質疑>

企画管理部

- (1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算（第5号）
<説明～質疑>

生涯学習部

- (1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算（第5号）
<説明～質疑>

総務部

- (1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算（第5号）
<説明～質疑>

会計管理室

- (1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算（第5号）
<説明～質疑>

教育部

- (1) 第1号議案 令和2年度亀岡市一般会計補正予算（第5号）
<説明～質疑>

4 討論～採決

5 陳情・要望について

- (1) 非核・平和施策に関する要望書（別紙1）
- (2) 亀岡運動公園陸上競技場改修に関する要望書（別紙2）

6 その他

- ・議会だよりの掲載事項について
- ・今後の委員会運営について
- ・次回の日程等について

日吉ダムにおける「事前放流」

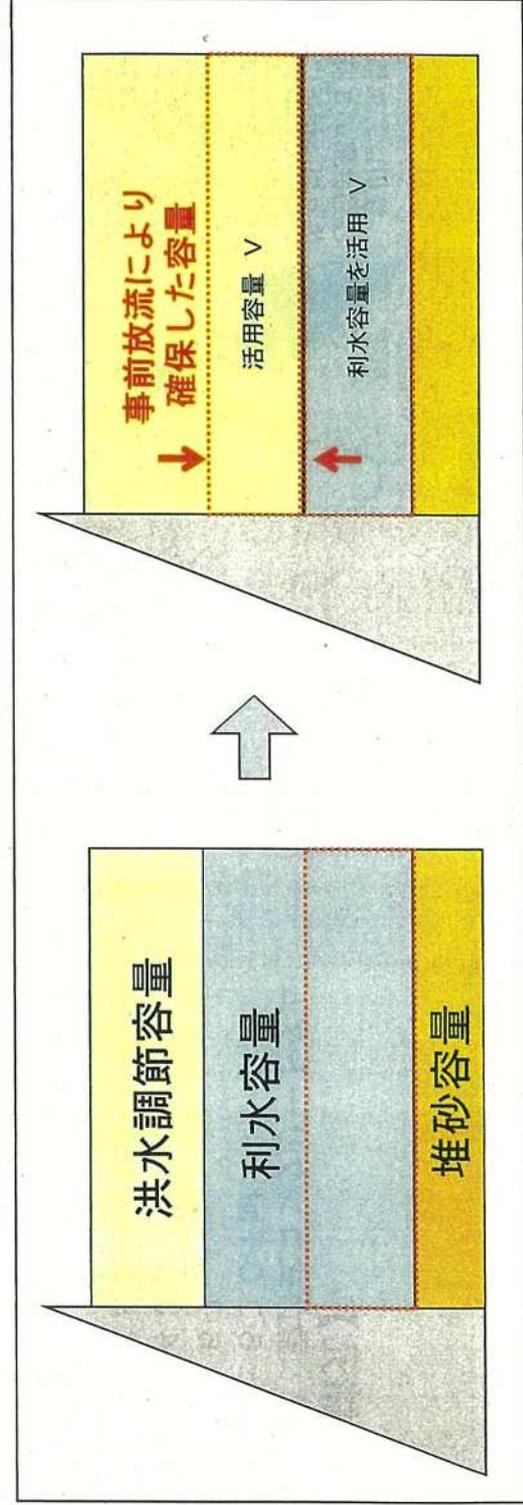
「事前放流」とは

洪水調節を目的に含むダムにおいて

計画規模を超える洪水においても、洪水調節機能を発揮させる。

このために

洪水の発生前に利水容量内の水を活用し、貯水位を低下させる。



ダム貯水池の容量配分概念図

日吉ダムの概要

【ダムの諸元】

ダム型式：重力式コンクリートダム
 堤体積：670千 m^3
 堤高：67.4m
 堤頂長：438m
 流域面積：290 km^2
 湛水面積：2.74 km^2
 竣工：平成10年3月

【ダムの目的】

1. 洪水調節

日吉ダム貯水池の洪水調節容量42,000 m^3 を利用し、ダム地点の流入量 毎秒1,510 m^3 のうち毎秒1,360 m^3 を貯留し（最大放流量は毎秒150 m^3 ）下流の洪水被害の軽減を図る。

2. 流水の正常な機能の維持

桂川の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る。

3. 水道用水の供給

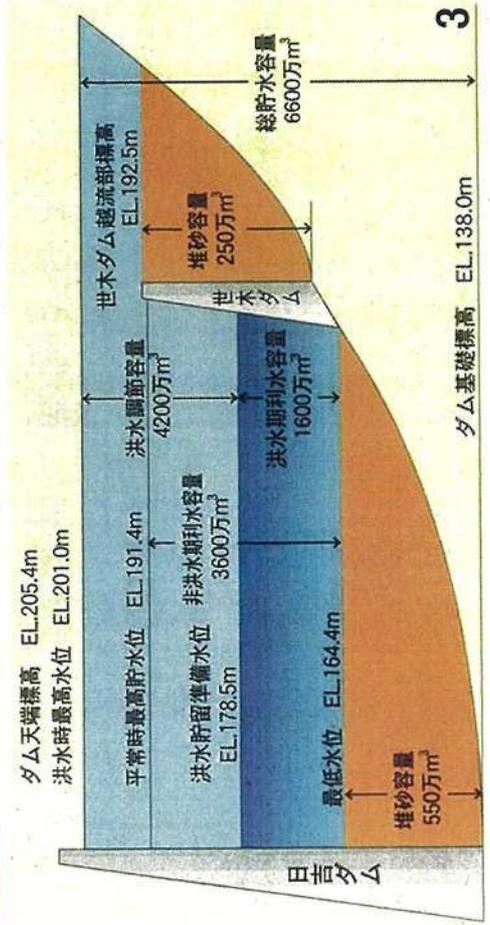
京阪神地区の上水道用水として最大毎秒3.7 m^3 を補給する。



桂川は、京都府、滋賀県及び福井県の3府県境近くの佐々里峠付近に源を発し、日吉波高原の東部を西進し、日吉ダムの下流で東南に進路を変え、田原川、園部川等の支川を合流、亀岡盆地を経て、保津峡、嵐山を通過し、京都盆地に至る。京都盆地の出口で鴨川を合流し、乙訓郡大山崎町・八幡市付近で宇治川、木津川の両河川と合流し淀川となり、大阪湾に注ぐ一級河川である。

【桂川】

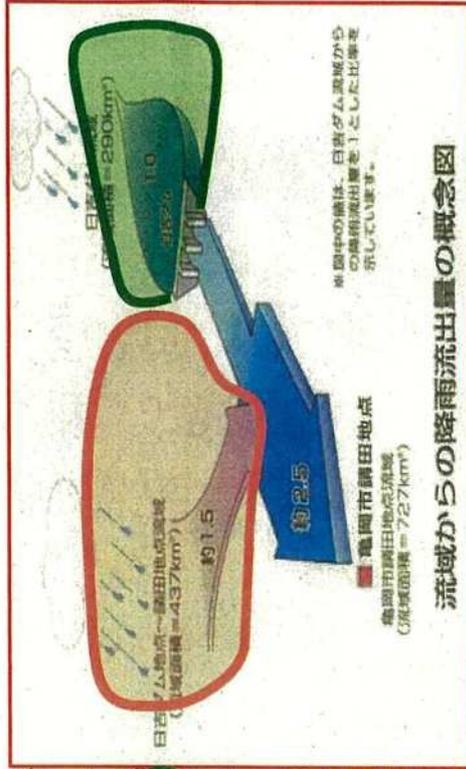
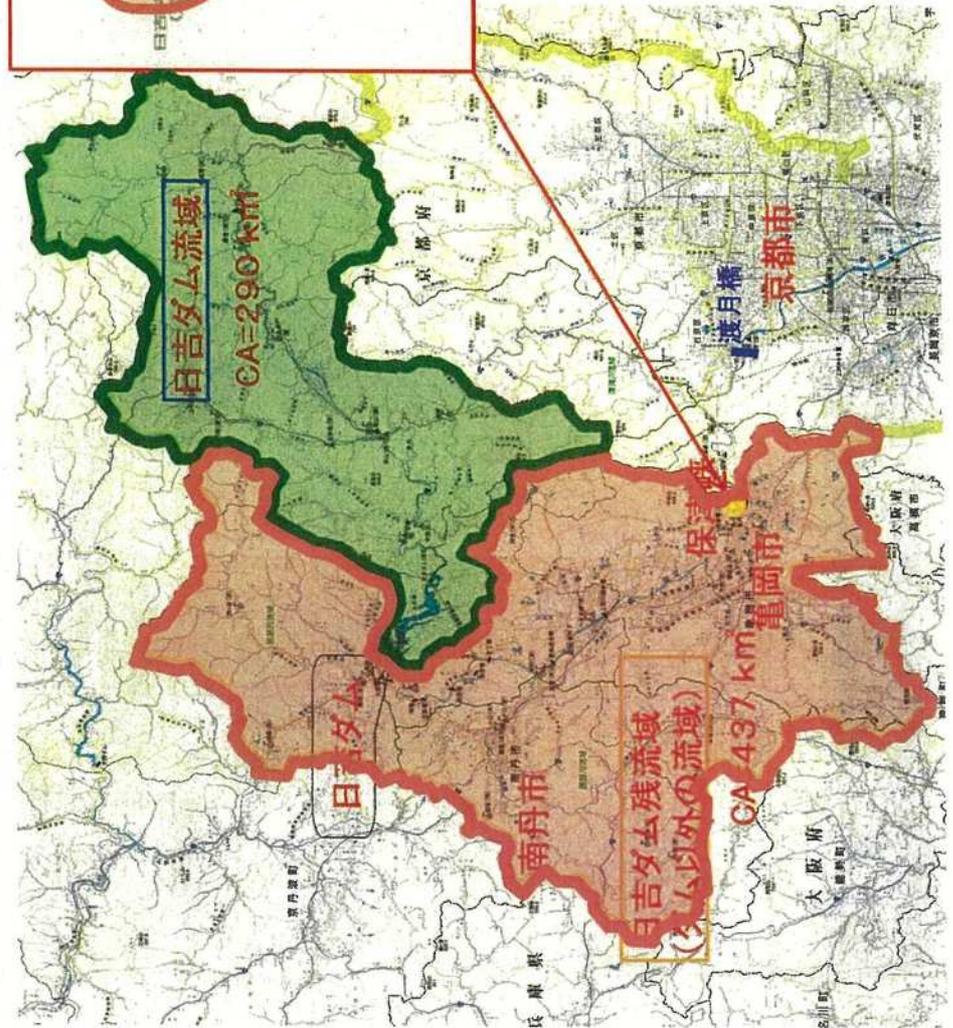
流域面積：1,100 km^2
 流路延長：114km
 (淀川合流点まで)



うけた

亀岡(請田地点)上流の桂川流域

- 日吉ダムの下流域も、大きな流域である。
亀岡市請田地点より上流の流域面積のうち、日吉ダムの流域面積が占める割合は約40%
- 雨の降り方や洪水の出方も異なる。(雨量強度、ピーク流量、到達時間など)

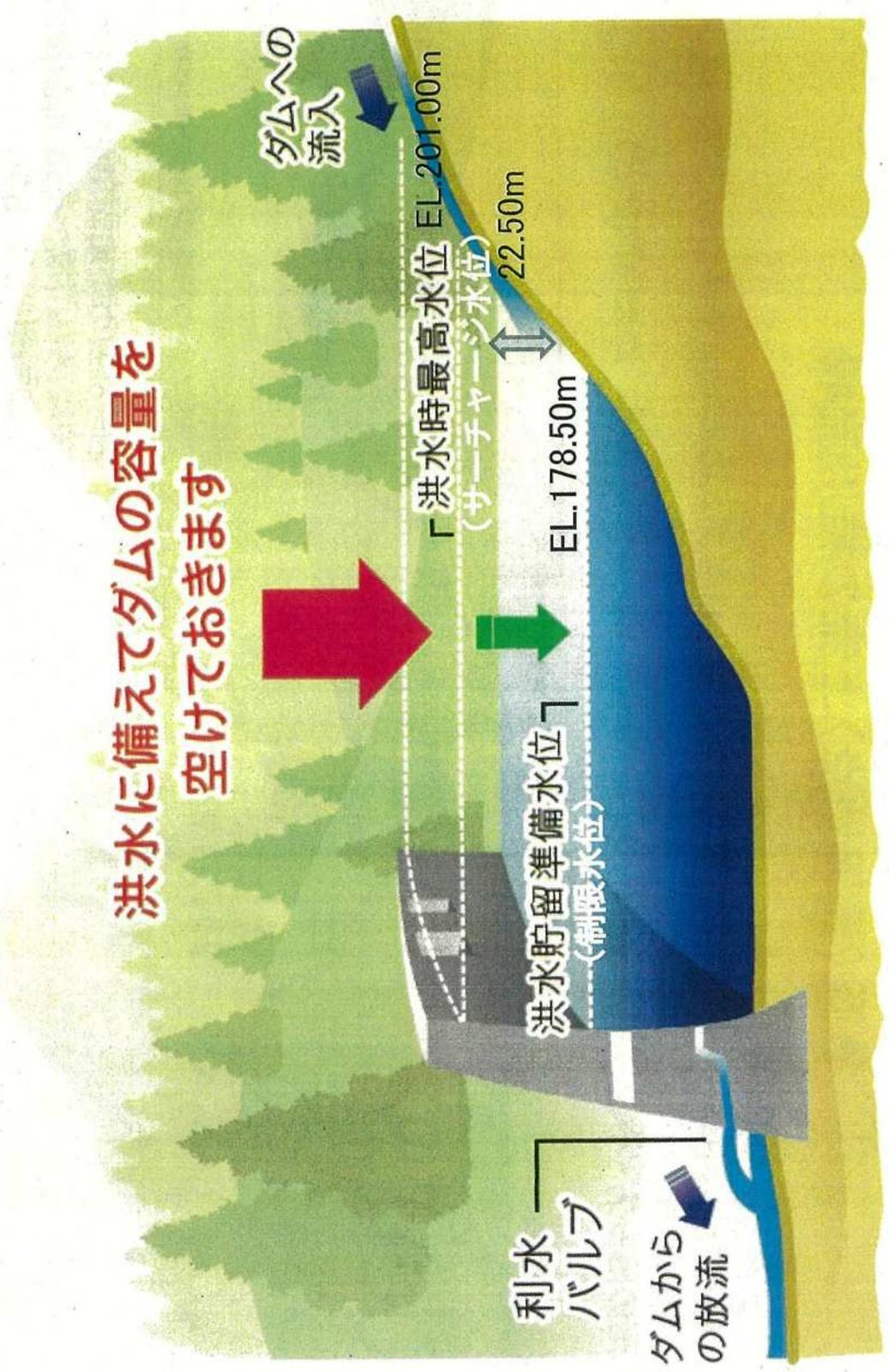


日吉ダムの流域面積を1.0とすると、残流域(ダム下流～亀岡市請田地点)の流域面積は、1.5倍



ダムによる洪水調節には限界があり、下流域の洪水被害低減を図るための河道等の整備は重要。

1 ダムの洪水時防災操作 その① 洪水貯留準備



貯水池が満水に近い場合、このゲートから放流を開始して貯水位を維持する操作を行います（異常洪水時防災操作）。

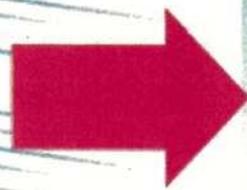
洪水吐ゲート
(非常用)

洪水吐ゲート

洪水時は、このゲートから予め定められた水量の放流を行います（洪水時防災操作）。

ダムからの放流
150m³/秒

洪水時にはダムに流れ込む水を貯め込み、
下流へ流れる水の量(放流量)を少なくします



ダムへの流入

EL.201.00m

EL.178.50m

22.50m

洪水貯留
ダムに入り込む流入のうち150m³/秒を上回る量をダムに貯留(貯水位上昇)

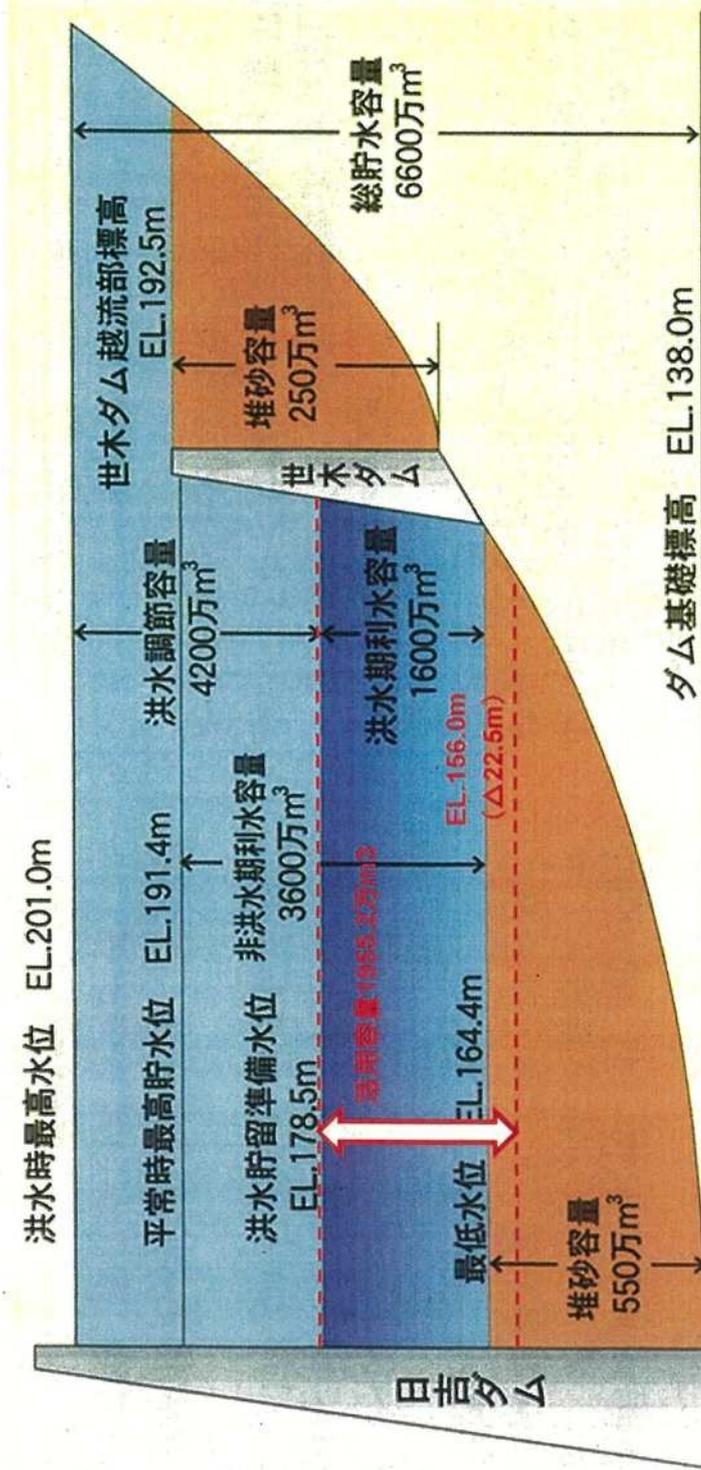
「日吉ダムにおける事前放流」実施の条件

～日吉ダムでは、令和2年6月より運用開始～

- ① 実績雨量 + 予測雨量の和が260mmを超える場合
- ② 事前放流におけるダムからの放流量は、最大150m³/sかつ、亀岡地点河川水位が水防団待機水位である2.3m以下
- ③ 回復可能水位テーブルに該当
(ダム貯水位が回復出来る範囲で事前放流実施)

利水容量を活用した容量1955.2万m³。2万m³

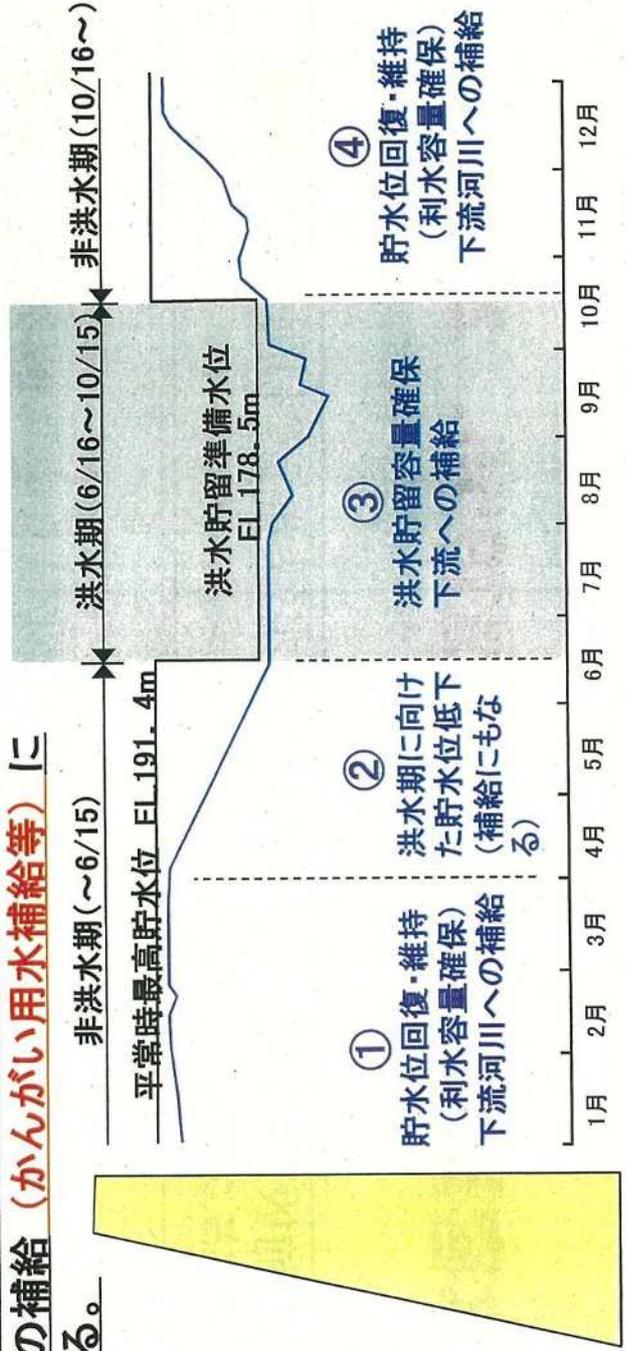
○事前放流における活用容量は利水容量内で利用可能な**最大1955.2万m³**とする。



日吉ダム貯水池の運用計画

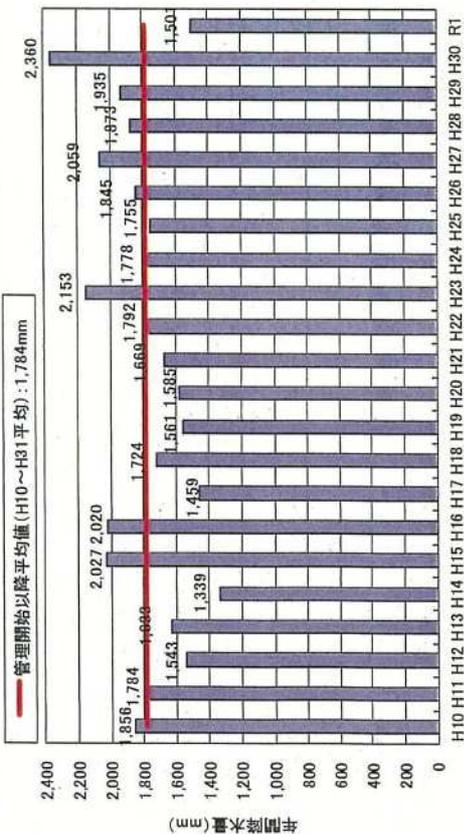
- ① 1月～3月
 平常時最高貯水位 (EL. 191.4m) に向けて貯留、若しくは貯水位を維持し、下流河川の水量が減ったときにダムから補給する。
- ② 4月～6月15日
 洪水に備えるため、洪水貯留準備水位 (EL. 178.5m) に向けて貯水位を低下する。
- ③ 6月16日～10月15日
 洪水に備えて、洪水貯留準備水位 (EL. 178.5m) 付近で貯水位を維持し、下流河川の水量が減ったときにダムから補給 (かんがい用水補給等) する。
- ④ 10月16日～12月
 洪水期終了後、平常時最高貯水位 (EL. 191.4m) に向けて貯留し、下流河川の水量が減ったときにダムから補給する。

貯水位低下のための放流は、下流河川への補給 (かんがい用水補給等) にもなる。



日吉ダム流域の降水量・流入量

■ 日吉ダム流域平均 年間総降水量 (H10～R1年)



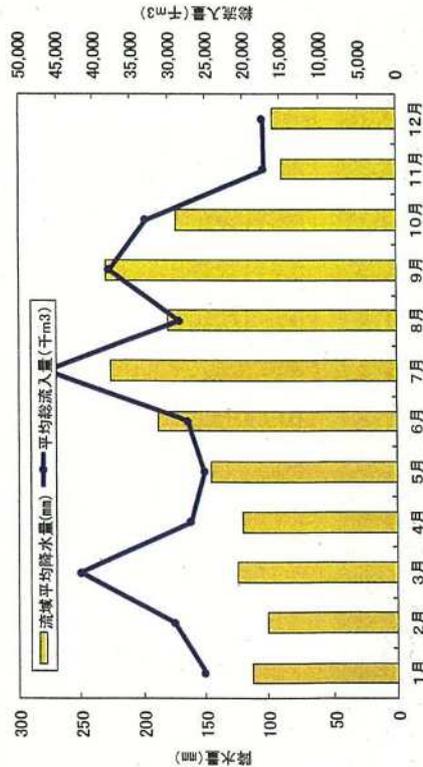
日吉ダム流域の管理開始以降の流域平均年間総降水量は1,784mmである。

令和元年は、年間1,501mm (累年平均の約84%)となり、平均に比べ少ない降水量であった。

■ 日吉ダム流域平均 月降水量・総流入量 (H10～R1年の平均値)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
流域平均降水量(mm)	113	99	124	120	146	188	226	181	230	174	88	96
平均総流入量(千 m^3)	24,955	29,121	41,593	26,925	25,083	27,354	46,062	28,435	37,760	32,951	17,076	17,234

3月は融雪によりダム流入量が多い特徴がある。また、梅雨期の7月及び台風期の9月においてもダム流入量が多く、8月は比較的少ない。



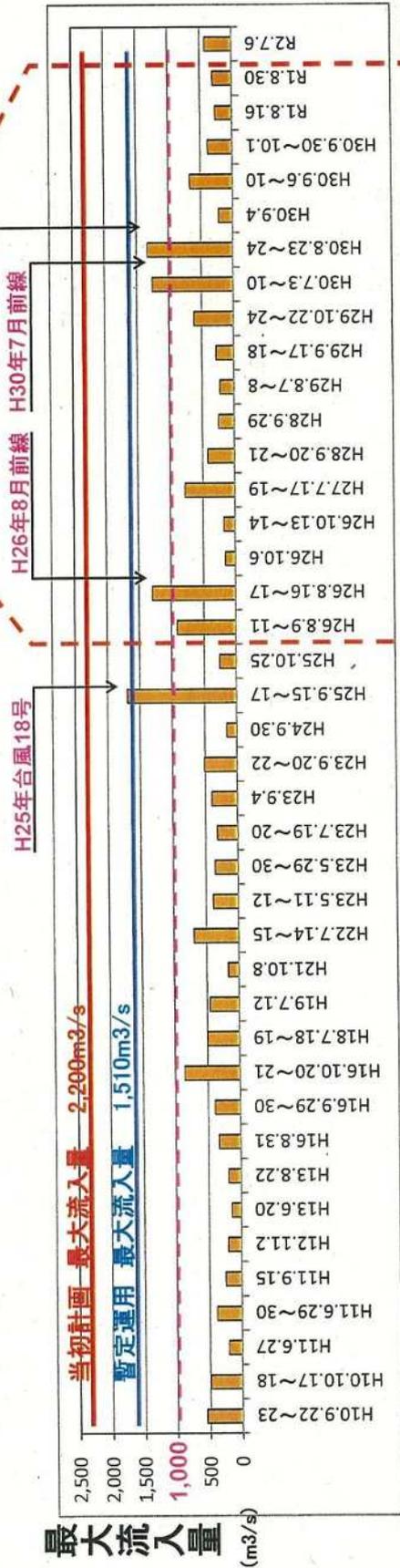
日吉ダムの洪水調節実績

管理開始から令和1年までに、計40回の洪水調節を実施

(年平均1.8回)

直近6カ年、計17回の洪水調節を実施
(年平均2.8回)

日吉ダム 洪水調節実績回数



平成30年7月6日

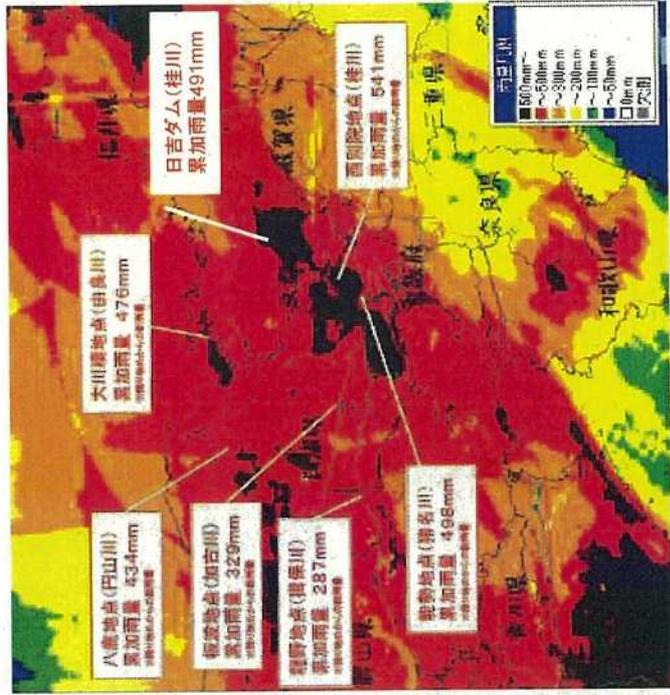
平成30年7月豪雨による 日吉ダム出水対応について

平成30年7月梅雨前線について

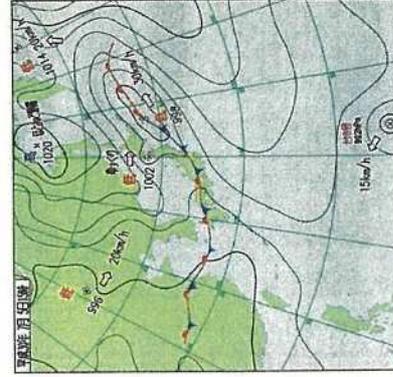
6月29日に日本の南で発生した台風第7号は、東シナ海を北上し、7月4日には日本海を北東に進み、4日15時に温帯低気圧となった。

5日から8日にかけては、西日本に停滞した前線に向かって、南から暖かい湿った空気が流れ込み、京都府では、前線の活動が活発となった。

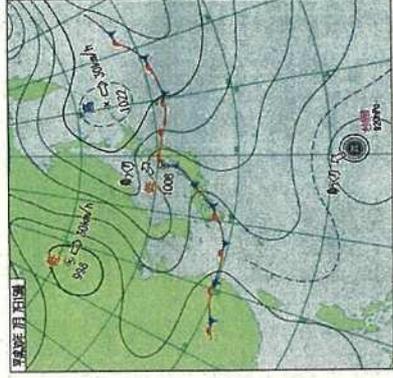
このため、3日から8日にかけて、日吉ダム流域では、7月3日21時頃から雨が降り始め、5日18時から21時までの3時間で68.5mm、5日4時から5時の1時間では36.2mmを記録し、3日21時から8日4時までに流域平均総雨量491.7mmのダム管理以降最大値を観測した。



累加レーダー雨量※1



地上天気図 7月5日15時

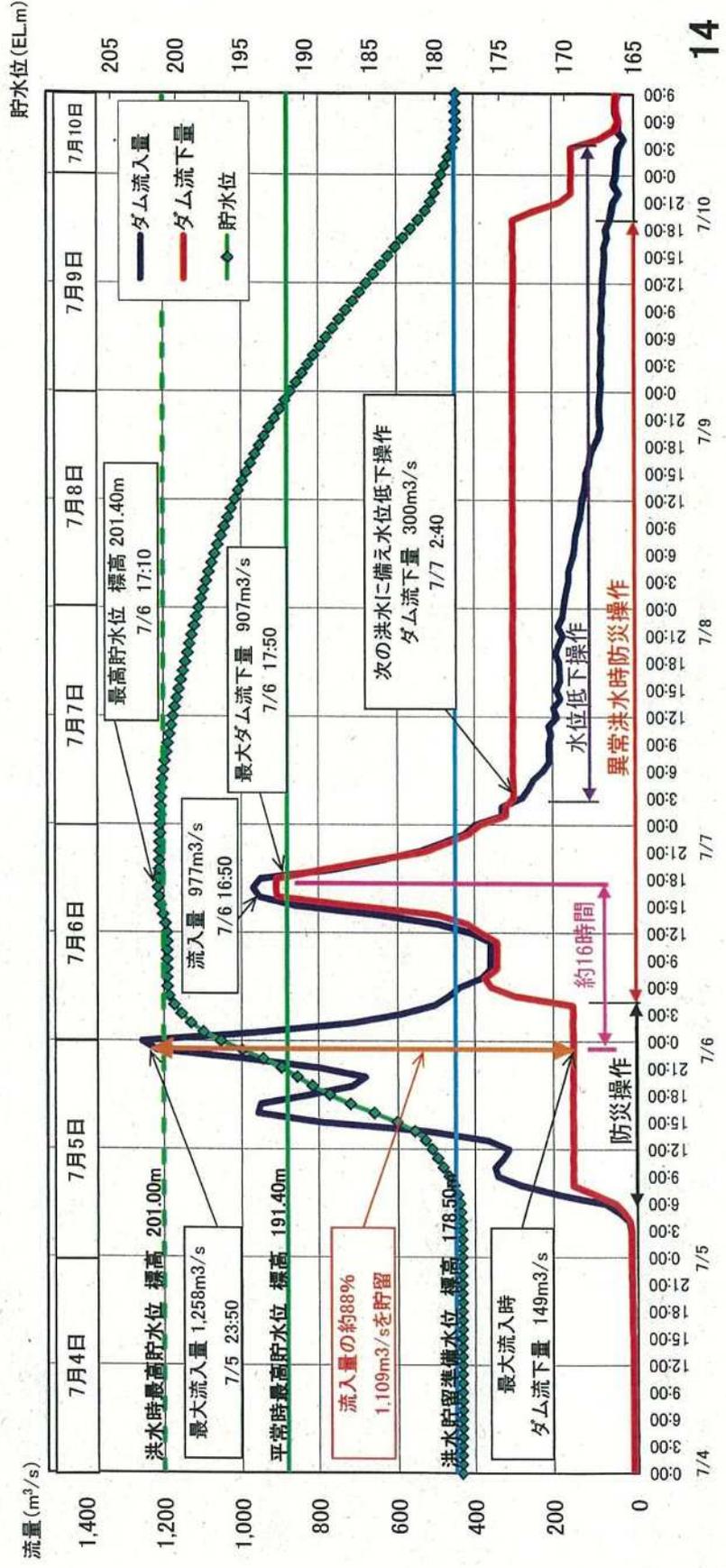
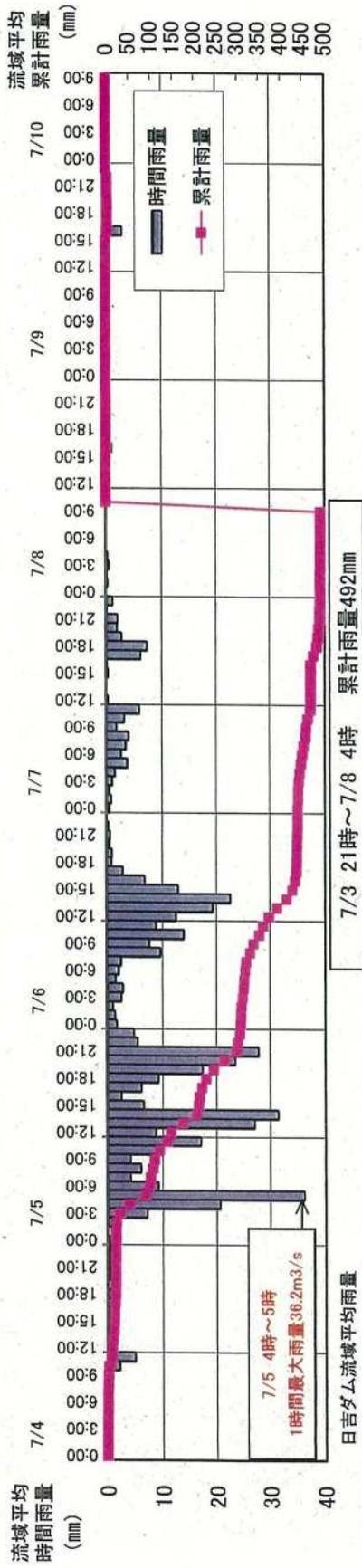


地上天気図 7月7日15時

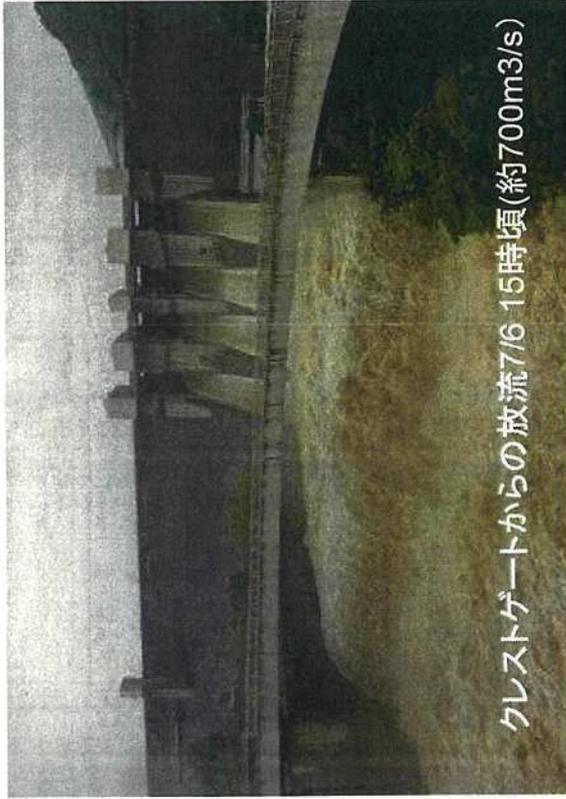
※7月5日から7月7日までの天気図
停滞前線の位置に変化無し

※1 平成30年7月豪雨の概要(第8報)近畿地方整備局より、13

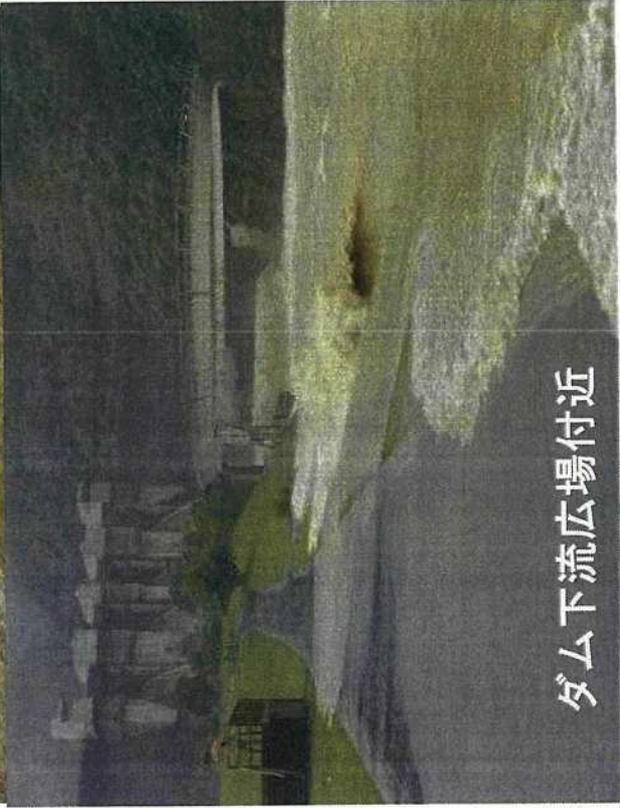
平成30年7月梅雨前線 日吉ダム防災操作図



平成30年7月梅雨前線 状況写真



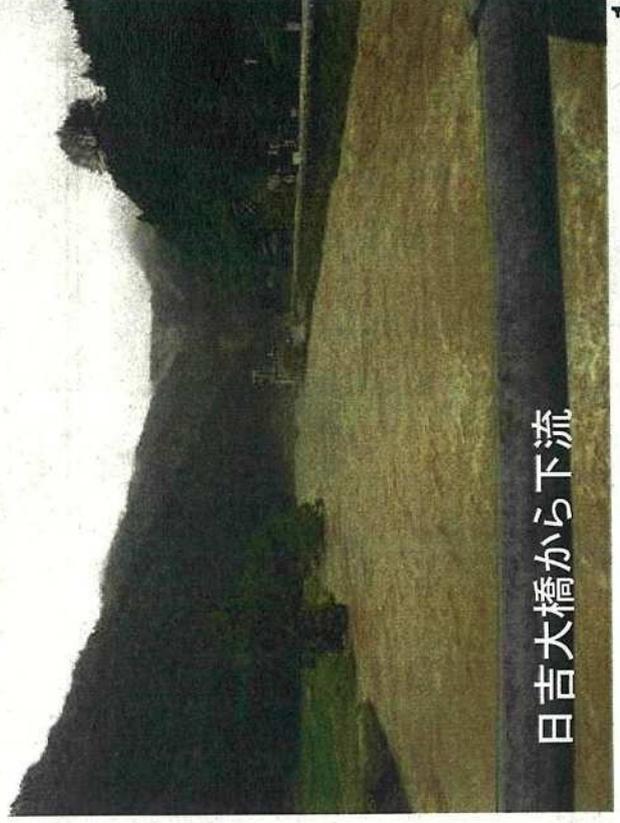
クレストゲートからの放流7/6 15時頃(約700m³/s)



ダム下流広場付近



スプリングダスひよし付近



日吉大橋から下流

日吉ダム異常洪水時防災操作について

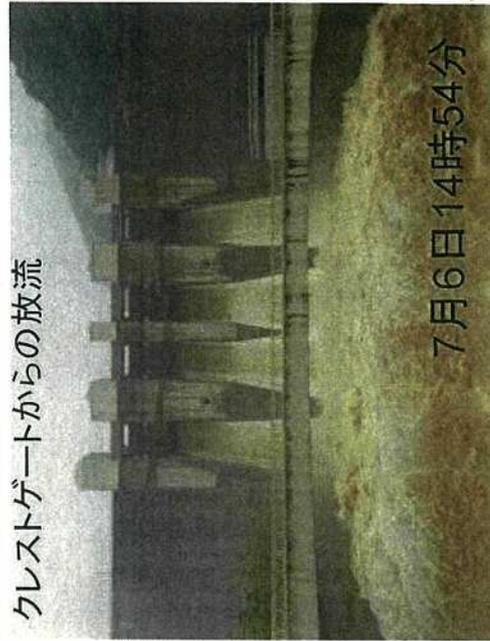
- 日吉ダムでは2回の異常洪水時防災操作を実施。

日吉ダム異常洪水時防災操作一覧表

出水名	総雨量 (mm)	最大流入量 (m ³ /s)	最大流下量 (m ³ /s)	異常洪水時 防災操作開 始水位(m)	異常洪水時防災操作 の特色
平成25年台風18号	345	1,694	504 (常用洪水吐)	EL.201.52	異常洪水時防災操作の開始を約1時間30分遅らせた。
平成30年7月豪雨	492	1,258	907 (常用+非常用洪水吐)	EL.200.20	—

- 日吉ダムただし書き(異常洪水時防災)操作要領
 - ・ただし書操作開始水位 標高200.20メートル(9.5割)
 - ・サーチャージ水位 標高201.00メートル
 - ・設計洪水位(上限水位) 標高203.70メートル

クレストゲートからの放流



※クレストゲートからの放流
7月6日14時10分から



淀川水系の水資源機構管理ダムの事前放流の運用開始について

～淀川水系治水協定（案）が合意されました～

- 「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」※¹に基づき設置された「淀川水系既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた協議の場」の第2回会議が開催され、淀川水系治水協定（案）が合意されました。
- この治水協定に基づき、水資源機構が淀川水系で管理する全7ダムにおいて、関係者と合意した事前放流ルールにより、事前放流の運用を開始します。
- 水資源機構が管理する日吉ダムと一庫ダムでは、平成30年7月豪雨において異常洪水時防災操作※²を実施しています。
今回、運用を開始する事前放流により、あらかじめダム貯水位を下げておくことで、洪水調節容量を使い切ることを回避（異常洪水時防災操作の回避）することや異常洪水時防災操作移行時間を遅らせることにより、ダム下流の浸水被害の軽減及び避難時間を確保することができます。
- 事前放流につきましては、今後も効果等を確認しながら、必要に応じて更なる改善に務めます。
- なお、近年の豪雨災害の発生状況に鑑み、豪雨時には関連の防災情報、避難情報に十分注意をお願いします。

※1 「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」

令和元年台風19号等の水害の激甚化等を踏まえ、ダムによる洪水調節機能の早期強化に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、総合的な検討を行うため、令和元年11月26日、内閣官房に「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議」が設置され、同年12月12日に開催された検討会議において決定された方針が、「既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針」です。

※2 異常洪水時防災操作

ダムの貯水容量が満杯になるとダムに貯め込むことができなくなるため、ダムに流れ込んだ量と等しくなるまで放流量を増加させる操作が、「異常洪水時防災操作」です。

令和2年5月29日



独立行政法人水資源機構

関西・吉野川支社 淀川本部

発表記者クラブ

近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、
三重県政記者クラブ、名張市政記者クラブ、
学研都市記者クラブ、奈良県政記者クラブ、
奈良市政記者クラブ、桜井市政記者クラブ、
京都府政記者室、南丹市政記者クラブ、
兵庫県政記者クラブ、豊中記者クラブ、
川西市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構関西・吉野川支社

淀川本部 施設管理課長 いわもと 岩本

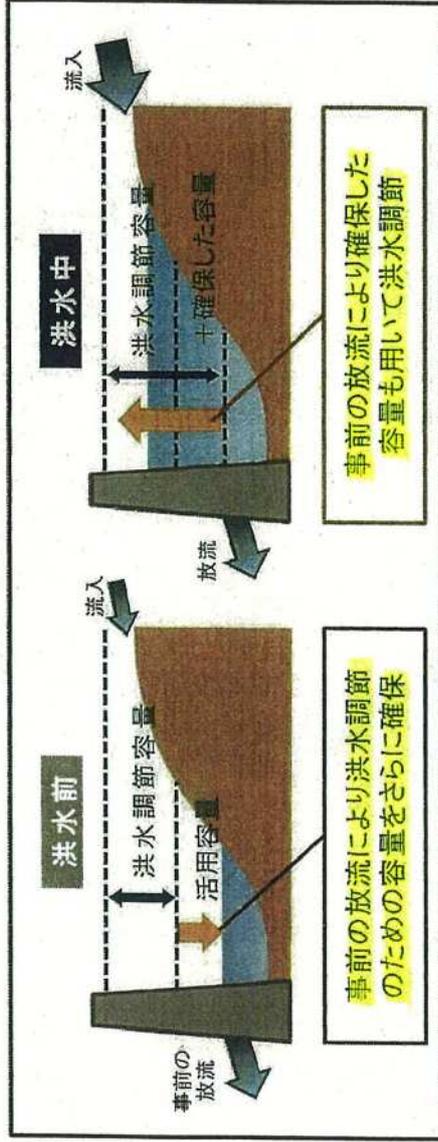
住 所 大阪市中央区上町A番12号

電話番号 06-6763-5182 (代表)

事前放流について

1. 事前放流とは

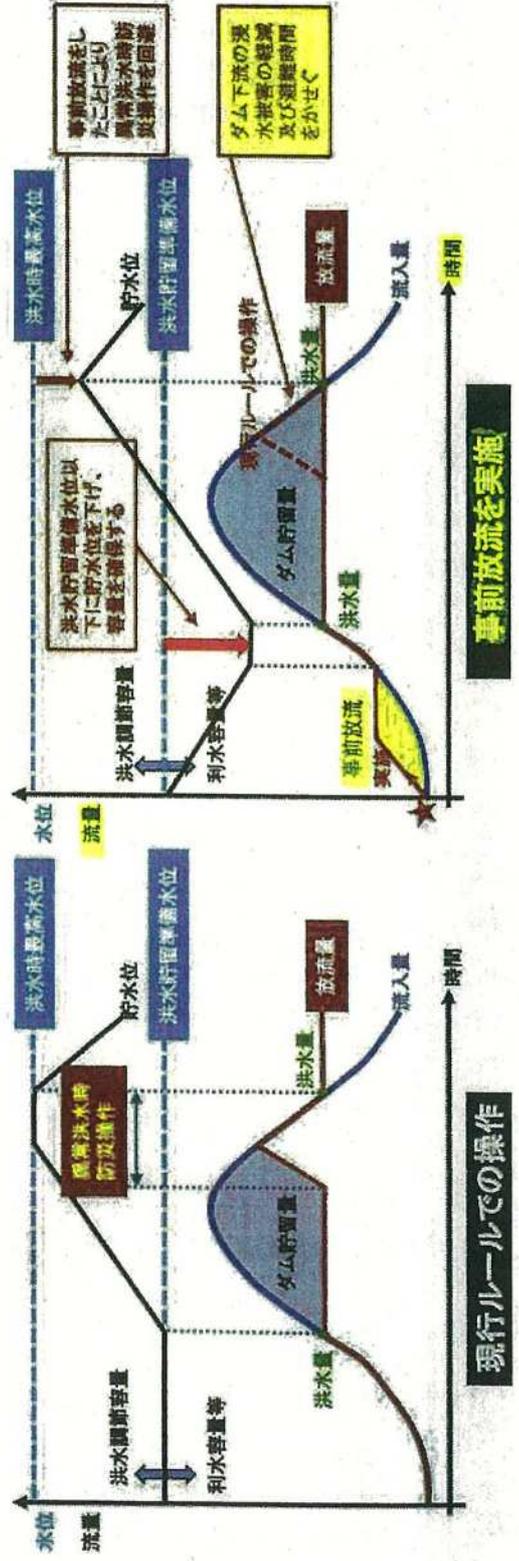
計画規模を上回る洪水が想定された場合に、ダムの容量の一部を洪水の発生前に放流し、洪水調節容量を一時的に増やす操作です。



2. 事前放流の効果

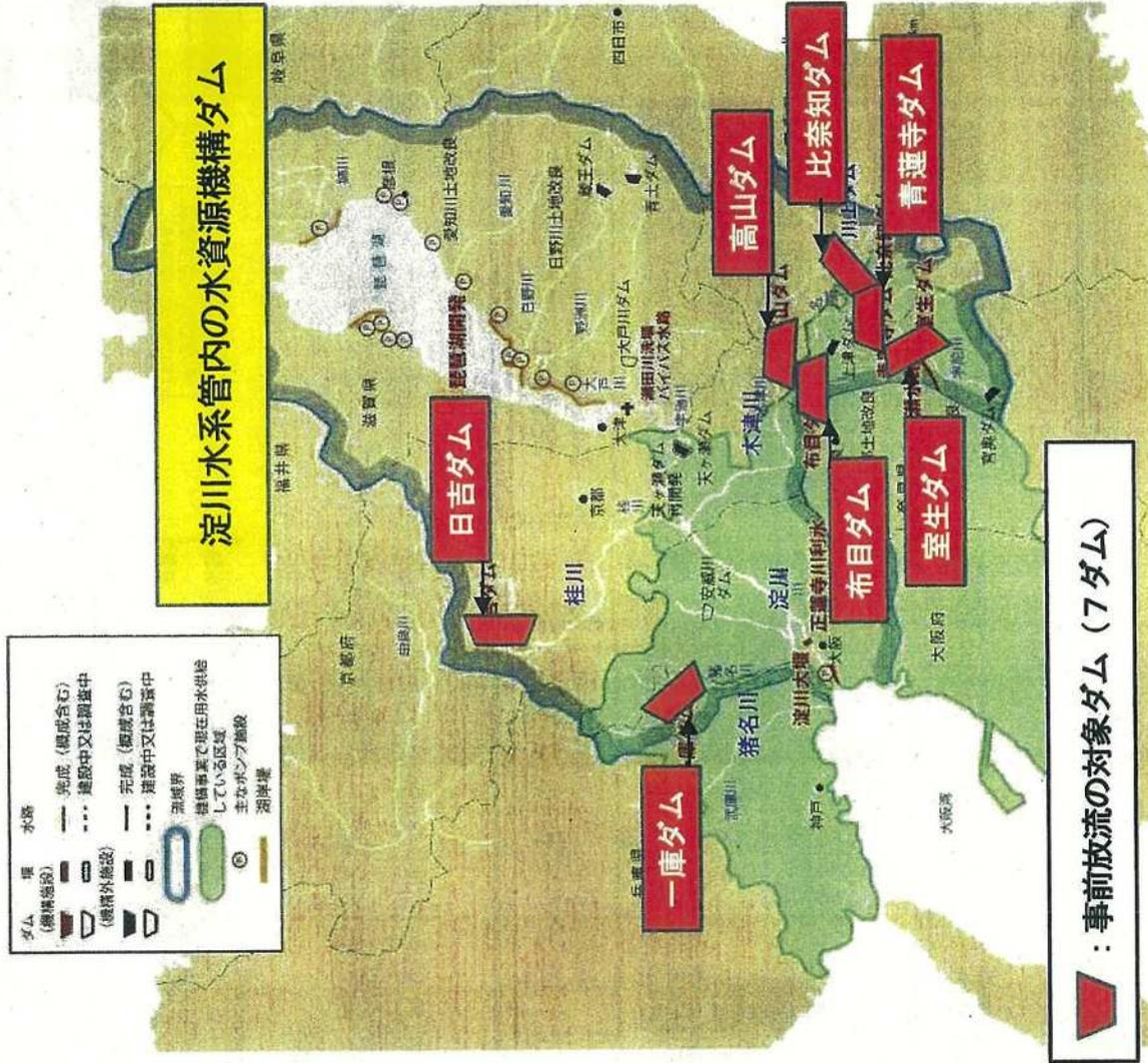
洪水調節容量を使い切ることを回避(異常洪水時防災操作移行の回避)することや異常洪水時防災操作移行を遅らせることにより、ダム下流の浸水被害の軽減及び避難時間を確保することができます。

<実施のイメージ>



淀川水系の水資源機構管理ダムの事前放流の実施について

◆ 水資源機構が淀川水系で管理する全7ダムにおいて、関係者と合意した事前放流ルールにより、事前放流の運用を開始します。



淀川・由良川水系 「事前放流」で協定

河川・ダム管理者 梅雨控え 水害軽減へ

前にあらかじめ放流する「事前放流」を実施するための協定を結んだ。水位を下げておくことで貯水容量を拡大し、水害を抑える狙いがある。

2018年の西日本豪雨では、貯水能力が限界に達した愛媛県のダムが緊急放流を行い、下流域で浸水被害が発生した。ダムには治水と利水両方の役割がある多目的ダムなどもあることから、豪雨が頻発する近年、治水向けの貯水容量をどう確保するかが課題となっている。

対策の一つが事前放流で、台風や豪雨で河川の氾濫が予測される場合にダムの水を流して水位を下げておき、貯水容量を確保する。下流域の浸水被害を軽減で

きるほか、住民が避難する時間の確保にもつながる。

府によると、事前放流によって日吉ダム(南丹市)などがある淀川水系では治水向けの貯水容量が最大で78%増の2億9010万立方メートル、大野ダム(同)などの由良川水系で28%増の2910万立方メートルになるとい

う。協定は、国の検討会議が昨年に取りまとめた基本方針を踏まえた。放流を判断するダムごとの基準降雨量やルールの策定、緊急時の連絡体制の構築などが明記されている。

府河川課は「個別のダムで事前放流をするより、水系全体で取り組むことで治水の効果がより高まる」としている。(峰政博)

梅雨や台風の季節を前に、京都府や近畿地方整備局などの河川管理者やダム管理者らが29日、淀川水系と由良川水系のダムで大





亀岡市：市議会議長 様

非核・平和施策に関する要望書

地域住民の平和と安全、そして健全な発展のためにご尽力されていることに敬意を表します。また毎年原水爆禁止国民平和大会の進行に対するご支援、ご協力に心からお礼申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、例年のような多数の人々が集った行進は取りやめ、宣伝カーの運行や街頭での宣伝行動に止めて地域の皆様にアピールすることになりました。ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

広島・長崎の被爆から75年を迎えました。2017年7月、広島・長崎の被爆者や市民の声を力に核兵器禁止条約が国連で採択され、「核兵器のない世界」に向けた歴史的一歩を踏み出しました。これまでに81カ国が調印し37カ国が批准しています。いま、世界の3分の2を超える国々や市民社会が核兵器禁止条約を支持し、条約の早期発効へと行動を強めています。

私たちは貴自治体と議会に対して、住民の命と安全を守る被爆国の地方自治体として、非核・平和施策の推進のために次の事項について要望いたします。

< 記 >

1. いま核兵器禁止条約の早期発効をめざして多くの国の政府が努力を強めていますが、唯一の戦争被爆国である日本政府は禁止条約に反対しています。被爆国として核兵器禁止条約に参加し、核兵器廃絶の先頭に立つよう日本政府に強く働きかけて下さい。
「核兵器禁止条約の調印・批准を求める」決議・意見書を提出して下さい。
2. 核兵器の禁止から廃絶へ国際的な動きが広がっている今、核兵器の非人道性を告発する被爆の実相を広げることがあらためて重要になっています。原爆（写真）展の開催など住民参加の創意あるとりくみを強めて下さい。とりわけ以下の点についてご協力下さい。
 - (1) 日本被団協が製作した「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」写真パネルを購入していただき、原爆写真展の開催などに積極的に活用して下さい。
 - (2) 住民が行う原爆（写真）展に後援・協賛して下さい。役所（役場）、公民館など公共施設を無償で提供して下さい。
 - (3) 教育委員会を通じて、小・中・高の児童・生徒に案内して下さい。
 - (4) 広報を通じて、住民に原爆（写真）展開催を知らせて下さい。
3. 2016年4月に被爆者が核兵器の禁止・廃絶を訴えた「ヒバクシャ国際署名」が思想、信条、宗教の違いを超えて世界と日本国内に広がっています。日本国内ではこれまでに20人の府県知事と約1229人の市区町村長が賛同され、京都でも京都府知事、京都市長をはじめ12人の首長が署名されています。「平和首長会議」も連携してとりくんでいる「ヒバクシャ国際署名」に賛同し、住民に協

力を訴えて下さい。

4. 広島・長崎に原爆が投下された8月6日と9日、終戦の日の15日には、住民のみなさんにも呼びかけて、「犠牲者への黙祷」などの非核・平和のとりくみを行なって下さい。また、貴自治体の非核・平和宣言を住民に周知徹底するとともに、宣言に基づく非核・平和施策を具体化・充実して下さい。脱原発を明記した新しい非核自治体宣言策定に住民と一緒にとりくんで下さい。
5. 子どもたちに平和の尊さを教え、被爆の実相を伝えることは重要な平和施策です。公立図書館や学校などで平和教材を充実するとともに、被爆者の体験を聞く機会を設けるなど、教育分野でのとりくみを積極的にすすめて下さい。
6. 被爆国日本の自治体が世界の自治体と連携して核兵器廃絶を国際社会に訴え、国際政治を動かすことは、今日の核兵器をめぐる状況からも重要です。「平和首長会議」と連携した核兵器廃絶に向けた国際的な行動に積極的にとりくんで下さい。姉妹都市などに被爆組写真を送るとりくみなど海外の自治体に被爆の実相を広げて下さい。
7. ノーモア・ヒバクシャ近畿訴訟をはじめ原爆症認定訴訟の相次ぐ勝訴判決は、国を動かして一定の改善を実現しましたが、司法の判断と被爆者の要求とは依然として大きな隔たりがあります。被爆者が訴訟を起こすことはもう困難です。原爆症認定問題の早期解決を国に働きかけて下さい。また高齢化がすすむ被爆者への独自の援護施策を実施・充実して下さい。
8. 若狭湾には世界有数の原発集中地帯があり、京都はその80%^{*}圏内にはほぼ全域が入ります。政府・電力会社に対し、高浜原発、大飯原発をはじめすべての原発の稼働を中止し、原発の廃棄・廃炉を求めて下さい。原発事故の危険から住民の安全を確保するために全住民を対象とした実効ある避難計画を作成するなどの安全・防災対策を強化して下さい。独自の自然再生エネルギー政策を確立し、とりくんで下さい。

2020年6月

原水爆禁止国民

京都実行委員



憲

2020年原水爆禁止国民平和大行進京都実行委員会

京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都内

原水爆禁止京都協議会気付 電話：075-811-3203

FAX：075-811-3211

令和2年7月27日 (郵送)

亀岡市議会議長
齊藤一義様

亀岡市陸上競技協
会長 關本卓



亀岡運動公園陸上競技場改修に関する要望書

上記につきまして、今後も公認競技場として検定に合格しますよう、改修に向けてご準備していただきたく、下記のとおり、お願い申し上げます。

記

1. 要望の趣旨

亀岡運動公園陸上競技場は、昭和63年京都国体の会場としてその前年に完成し、同時に日本陸連の第3種公認検定を受け、以来20年間5年おきに公認継続を受けてきました。ここ数回の検定では、部分補修等により何とか公認継続されてきましたが、前回の検定時(平成29年)に日本陸連公認検定員から「トラックのウレタン舗装の劣化が激しく、今回は部分補修では公認継続できない」と指摘を受けております。そして、2019年度からは、競走路の規格変更があり、次の検定時には、全面改修が必要となります。

また、曲走路部分が6レーンしかなく、大会を開催する際に大きなデメリットとなっており、競走路の狭小による8レーン化を要望します。さらに、前回検定時に指摘を受けました備品等の追加補充が必要となります。

2. 要望の理由

亀岡市の陸上競技の競技力は、府民総体陸上競技の部で、第20回大会から29回大会まで10連覇を達成し、昨年で19回の総合優勝を数えました。この成果により平成19年には京都府スポーツ賞功労賞、亀岡市市政功労表彰を受賞、同駅伝においても、過去3回の優勝を含めて、常に上位入賞を果たしており、層の厚さと競技力の高さを維持しています。また、地元の中学生も毎年のように全国大会に出場、活躍しており、2014年に東輝中学校を卒業した井本君は今回の東京2020オリンピックの日本代表候補として頑張ってくれています。小学生のジュニア陸上教室では、毎年100名を超える登録があり、年間を通して陸上競技場を中心に活動しています。2019年度は、詳徳小学校の寸田君が、全国大会で3位入賞を果たし競技力向上がみられます。

このように高い競技力が維持できていることは、他の市町村では見られない特徴的なもので、亀岡市が公認陸上競技場を持っていることが非常に大きな要因となっていることは明白です。

上記のことより、次回検定(2022年7月から8月頃)時までには、公認競技場として継続できますよう改修を要望するものです。

3. 要望の詳細

① 競技場内ウレタン舗装の全面改修

→ 2019年に日本陸連公認検定員から競走路幅変更について指摘があり、走路の全面改修が必要とのこと

② 全走路を8レーンに

→ 市内小・中学校の大会、亀岡陸協の大会を開催する場合に、曲走路がセパレート6レーンでは、足りず時間設定等が厳しくなっている

③ 曲走路内側ピットを両側に

→ 現在、北側のみ走高跳・やり投・砲丸投ピットがあるが、同時進行の種目に制限があり、競技時間の設定が厳しい

④ 用器具（ハードル）の充実

→ 現在ハードルが旧規格となっており、1台でも破損してしまうと競技会が開催できなくなる。

⑤ 用器具倉庫の増改築

→ 現在の用器具倉庫（スタンド下南北に1ヶ所ずつ）の内、南側にハードル（8台用台車10台）と棒高跳マット、走高跳マットが各1セットずつ収納しているが、これで満杯状態である。現在の棒高跳マットは規定外で、規定に合わせると収納できなくなる。そのため、増改築が必要となる

⑥ 各コーナーへの信号ケーブルの埋設と電源の確保

→ 現在は大会の都度、ケーブルを敷設撤収しているため損傷が激しくなっている。レーン増設やウレタン舗装改修時に、同時工事なら手間が済む

⑦ 写真判定室の新設

→ 現在は写真判定機のパソコンを倉庫内に設置して実施しているが、大会が終了するまで用器具を倉庫に収納できない状態である

⑧ 第1、2ゲート扉の拡幅

→ 今後、ハーフマラソンを開催するにあたり、競技場を発着とするなら、参加人数の規模によりゲートの拡充が必要である（約2000人の同時スタートが限界）

⑨ 簡易夜間照明の設置

→ 写真判定のためフィニッシュライン付近に必要。また、トラックのみを明るくすることで、季節により使用可能時間の延長が可能となる。

⑩ スタンド下各設備、施設の老朽化に伴う改修

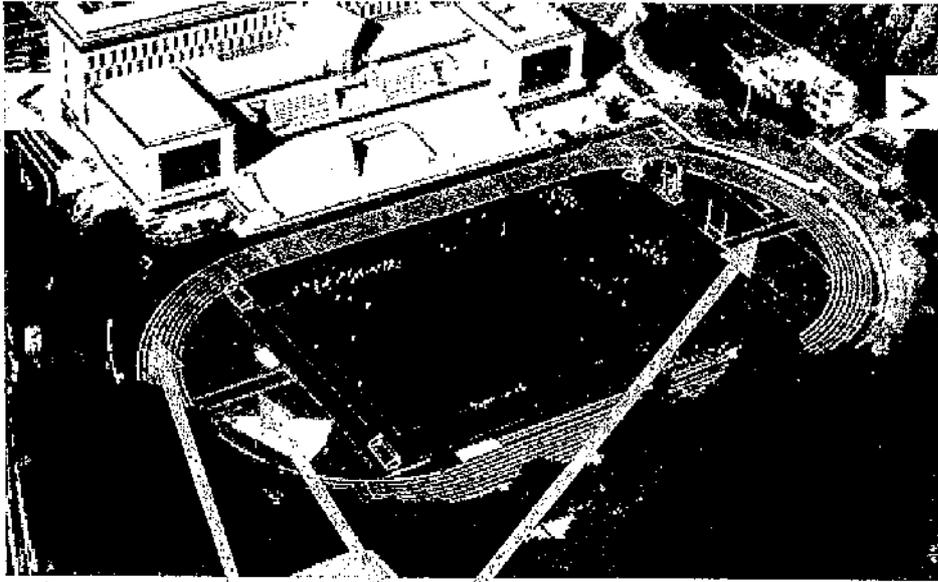
→ 1F研修室を始め、雨漏りが激しく、使用料を徴収しての施設とは思えないほどひどい状況である

⑪ 全スタンドへの簡易屋根の設置 → 雨天時対策

⑫ 補助競技場の新設 → 危険防止のため

⑬ 長距離障害走のための水濠の新設 → 大会開催可能規模を大きくするため

⑭ 電光掲示盤の新設 → "



②

③

